



## 「縁」

医事課 課長 種村 満

当院に勤務して30年が経過しました。(前西窪病院からの通算)

この間、病院長、看護部長、事務部長の交代を何度か経験しつつも、「地域に根ざした病院」であり続けることができているのは、病院長の指導のもと、職員が同じ方向を向いて業務に取り組んでいる結果だと思えます。

私の勤める医事課でのこれまでを振り返ると、私が入職した平成5年(1993年)当時は、レセコンと呼ばれる医療費の計算とレセプト(診療報酬明細書)を作成することに特化したコンピューターシステムを導入しており、レセプトを手書きで作成することはありませんでした。それでも、紙のカルテ(診療録)に記載された内容を読み取り、一から手入力で会計入力を行う必要がありました。その後、平成18年(2006年)5月に現在の武蔵野陽和会病院への移転と同時に、オーダーリングシステムを導入。多くの会計項目を自動的に取り込み請求書の作成をすることができるようになりました。更にレセプト作成時の

用のパソコンを2台並べて設置し、特別な読解力を要しない読みやすい文字で入力されたカルテを参照し、レセプト作成ができるようになりました。平成31年(2019年)4月に電子カルテシステムの変更を行うと、1台のパソコン上でカルテの参照と会計入力を行うことができるようになり、より便利で正確な会計入力、レセプト請求が行える体制が構築されました。

病院の体制では、訪問診療を開始したり、回復期リハビリテーション病棟を稼働させたりと新たな事業を展開していく中で、医事課でも外部業者による一部業務の委託を開始するなど、スタッフの構成にも変化がありました。

システムや業務形態の変更など、様々な変化を経て現在に至る間に、多くの職員の入退職がありました。その時々で目の前の課題に真摯に向き合い、最善の策を見いだそうと、皆で前向きに検討する姿勢に対して、常々頼もしく感じていました。いずれは自分も退職を迎えるということ意識しだしたとき、現在の医事課の雰囲気や取り組みを維持しつつ、より良い体制を目指していけるようさらに努力をしなければと改めて思った一方で、これまでの体制を継続できたのは、本当に縁に恵まれていたのだと感じました。こうした取り組みを今後も継続していくためにも、これまで勤務してくれた方々に感謝すると共に、これからまた新しい方々との素敵な出会いを経て、武蔵野陽和会病院医事課が成長していく姿を見守っていきたいと思います。



不備をチェックする点検ソフトも導入し、レセプト作成の精度を高めていきました。平成25年(2013年)11月に電子カルテが導入となり、電子カルテ用のパソコンと会計入力

